

代が41%、50歳代が12%で、平均年齢は40・02歳となっている。町内の若者の居住状況を考察して、今後、大幅な増員につながる要素は少ないのではないかと思われる。若年層の確保が難しいことから、消防団OBなどによる「機能別消防団員等の確保」を検討している。消防団詰所における団員の駐車状況については、全ての詰所に駐車場が整備されているわけではなく、遠方の団員は車を利用して、歩道上への駐車に起因する災害への可能性は否定できないが、現状の出勤状況を勘案すると、そのため、駐車場の整備は財政的にも難しい状況にある。今後消防団幹部会等を通じ、モラルのある駐車を指導していきたい。

#### 自主防災組織の結成状況について

6月1日現在、19組織、1,616世帯が加入しており、31・4%の組織率となっている。現在、大宿、下大野、小松、小倉地区でも結成に向けた話し合いが進んでおり、それらが結成すれば、結成率は42%程度に上昇するが、それでも県の平均を下回る状況である。引き続き各種会議などの機会をとらえ、未結成地区には積極的な呼びかけをしていきたい。

#### 三島橋周辺の整備について

町長 三島橋は、橋桁の塗装ぬり替え工事を平成13年度に実施し、橋の安全対策を講じたところである。町道に架かる20m以上の橋は、

平成25年度までに、国庫補助である臨時交付金事業で「道路橋・長寿命化修繕計画の策定事業」を実施して、定期点検・日常的な維持管理に加え、最も効率的・効果的な修繕を計画的に実施することで、橋りょうの長寿命化を図り、修繕や架け替えに係る費用を大幅に削減することとしている。今後、この事業により、維持管理、修繕、架け替え計画を立てることとしている。

平成17年の台風の豪雨による浸水被害の報告が地元からあり、宇和島地方局に土砂の撤去を申請しているが、土砂が大量であるため、予算の目処が立っていないとのことである。橋や農地を守ることも大切なことであり、今後の河川改修計画に配慮していただくよう県の担当課に要望する。

#### 自動体外式除細動器（AED）設置について

教育委員長 愛治診療所、三島診療所、日吉診療所のほか広見体育センター、B&G海洋センター、鬼北総合公園、日吉トレーニングセンターの各運動施設に設置しており、危機管理の面からも配備は必要であると認識している。小・中学校には未設置であるため、今後は講習会や啓発と併せて、順次AEDを配備していきたい。

#### 診療所の運営について

町長 日吉診療所の入院部門を18年度限りで休止せざるを得ない状況となつたが、医師が赴任しやす

い環境整備、関係者の懸命な医師確保により、何とか後任医師の赴任を得、外来診療については従来どおりの診療を継続することができている。昨今の「新医師臨床研修制度」の発足や診療報酬の改定等により、全国的に医師不足に拍車がかかり、当町のような過疎地にあつては、一段と厳しい経営や運営を強いられている。高齢化率の高い過疎地にあり、保健・医療・福祉の総合的なサービスの提供と地域に密着した医療を確保するためにも、へき地診療所の果たす役割は大きく、診療所の必要性を痛感している。しかし、医療を提供するには、核となる医師の配置があつてこそ可能なものであり、地域医療の充実を図るためにも、今、最重要課題である医師の確保について、県等関係機関の支援・指導を受けながら、関係者が一丸となつて取り組んでいる。

#### 横山 二一 郎 議員

#### 出目地区の防水対策について

町長 現場は、水路が住宅の間をクランク状に曲がった状態となつていて、水の流れを阻害しており、平坦な地形のため河川までの水はけが悪く、台風などの集中豪雨には、一時浸水被害が発生することが予想される。

一昨年、愛媛県が国道320号線と町道出目日本町線との交差点付

近にある「横断暗渠」と「集水桝」を排水処理能力の高い、大きなものに改良したので、これによりこの付近の排水は以前より改善するものと思つている。河川でない水路の改修は、農業用を除き改修事業に対する補助金はなく、地元財源での改修となるので、今のところ困難である。

#### 節安ふれあいの森の経営の見直しについて

町長 これまで旧日吉村の山岳レクリエーション施設として地域住民の方々に愛され、親しまれてきた施設であり、その思いからも存続していきたいと考えているが、存続するには、厳しい町財政事情の中での、経営の見直しが必要である。見直しにあたっては、たとえ不採算部門であつても雇用の場の確保や、賑わいによる地域活力の醸成など、広い面での判断が必要だと思つている。このように総合的な面から経営の見直しを検討した結果、経営赤字の大半を占めるりんご園を休園とし、「体験学習施設」、「簡易宿泊施設」および「そうめん流し」に重点を置き、夏季シーズン等に限定した施設利用に経営改善を図り、存続していきたいと考えている。

#### 成川溪谷休養センターの経営状況について

平成16年の災害により利用者が減少していたが、接客サービスの向上、好評な料理、新しいサービ